

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙，目次，あいさつ，編集後記，奥付

図書名	日本語文字・表記の難しさとおもしろさ：国立国語研究所第4回NINJALフォーラム
発行年	2012-06-29
シリーズ	NINJALフォーラムシリーズ；2
URL	http://id.nii.ac.jp/1328/00000897/

国立国語研究所 第4回NINJALフォーラム

日本語文字・表記の 難しさとおもしろさ

基調講演

漢字とどうつきあうか 阿辻哲次

「自由度」こそ日本漢字の魅力 小駒勝美

放送と漢字 柴田 実

文字の認知単位 横山詔一

学校における表記の非日常性 棚橋尚子

漢字:その魅力にひそむエンドレス感 シュテファン・カイザー

パネルディスカッション

日本語文字・表記の難しさとおもしろさ

阿辻哲次／小駒勝美／柴田 実／横山詔一／棚橋尚子／シュテファン・カイザー／高田智和(司会)

国立国語研究所 第4回NINJALフォーラム

日本語文字・表記の 難しさとおもしろさ

目次

◆あいさつ	1
影山太郎	
◆基調講演	2
阿辻哲次 漢字とどうつきあうか	
◆講演	
小駒勝美 「自由度」こそ日本漢字の魅力	10
柴田 実 放送と漢字	15
横山詔一 文字の認知単位	22
棚橋尚子 学校における表記の非日常性	27
シュテファン・カイザー	
漢字:その魅力にひそむエンドレス感	41
◆パネルディスカッション	42
司会●高田智和	
阿辻哲次／小駒勝美／柴田 実／横山詔一／棚橋尚子／	
シュテファン・カイザー	

あいさつ

影山 太郎 (国立国語研究所所長)

皆さま、ようこそいらっしゃいました。国立国語研究所所長の影山と申します。

大学共同利用機関としての国立国語研究所は、発足してから二年が経ち、言語学的な観点、伝統的な国語学・日本語学の観点、日本語教育の観点など、さまざまな観点から多彩な共同研究を行っています。研究成果をできるだけ早く皆さまにお届けするため、今日のような公開

講演会を定期的に年二回ほど開催しています。

このような公開講演会を開くと、「次はこれこれのテーマで開いてほしい」というご希望が出てきます。希望が多いのは、何と言っても漢字の問題です。それだけでなく、研究所では日常、手紙や電話等で日本語の使い方について「これが正しいのかどうか」といった質問・相談をたくさん受けます。中でも多いのが漢字の読み方や使い方に関する質問で、これが全体の三分の一ぐらいを占めています。漢字は私たち日本語を使う者にとっては中心的な役割を果たしています。本日は、国立国語研究所で文字・漢字を専門にしている所員だけではなく、各方面からゲストスピーカーをお招きし、「日本語文字表記の難しさとおもしろさ」と題してバラエティに富んだ講演を聞いていただきます。

世界には、過去に消滅した文字も含めて百数十種類の文字があると言われていますが、一つの言語の中に複数の文字体系があり、しかもそれらが平和的に共存しているのはおそらく日本語だけではないかと思われまふ。すなわち、私たちは日ごろ文章を書くときに、漢字、平仮名、片仮名、場合によってはローマ字、そして最近では携帯電話の絵文字なども含めてさまざまな表記方法を駆使していますが、このような言語はおそらくほかにありません。言語学・文字学の専門家であるス



影山 太郎

ティーヴン・フィッシャーも、その大著の中で、「日本語の文字体系は、恐らくこれまで地球上に存在したことがないほど特殊で複雑である」と述べています。このように外国の人々から見れば、日本語で四種類の文字が使われるのは複雑で奇妙

なこともかもしれません。しかし実際に使っている私たちにとっては、多少問題があつても、非常に便利なものです。

よく言われるように、アルファベットや仮名は表音文字で、「か」なら「カ」という発音を表します。漢字は表意文字で、意味あるいは単語を表します。この区別は、私たちの脳の活動からすると、非常に重要な意味合いを持っています。文字を目で見て読む場合、平仮名ばかりで書かれていると、いったんそれを言葉として読んでから、意味を解釈することになります。このぶんのようにひらがなばかりでかかっているぶんしゅうをりかいしようとする」と「この文のように平仮名ばかりで書かれている文章を理解しようとする」と、私たちの脳は、まず、どこからどこまでが区切れになるのかを見極め、その後で、まとまりをつなぎ合わせながら意味を解釈していくという二段構えの操作を強いられます。平仮名ばかりの文章（しかも、単語のまとまりごとに分かち書きをしない文章）が読みづらいのは、そのせいです。

ところが、漢字の場合は、ぱっと見ただけで意味が読み取れ、脳の処理は一回で済みます。これは脳科学や神経心理学の実験でも証明されていることです。例えば、ある種の失語症の人に文字を見せる場合、「うみ」と平仮名で書いたものを見せてもなかなか意味をつかんでくれないが、「海」という漢字を見せたらすぐに分かつてもらえた、といった実験結果があります。そのような実験結果からも分かるように、漢字と平仮名の使い分けは、私たちが普段意識している以上に、日本語の意味理解に重要な役割を果たしているのです。

今日は、世界的に見てもユニークで貴重な文字体系を持つ日本語の中で、特に「漢字の多様性」を共通テーマとして、六人の専門家にお話しいただきます。最後までお楽しみください。

編集後記

平成23年9月11日、第4回NINJALフォーラム「日本語文字・表記の難しさとおもしろさ」を一橋記念講堂にて開催しました。フォーラムの開催趣旨は次のとおりです。

世界の諸言語の中で、日本語の文字・表記は最も複雑だと言われている。使っている文字も、平仮名、片仮名、漢字と3種類を駆使しているのは、日本語だけである。このことは、和語には平仮名、漢語には漢字、外来語には片仮名のように、文字表記表現としての豊かさを示しているとともに、漢字の異体字や、送り仮名・仮名遣いなどの使い分けの原因ともなっており、学習や実務での不合理さとして言及される。本フォーラムでは、印刷、放送、心理学、国語教育、日本語教育の専門家を迎えて、日本語文字・表記の難しさとおもしろさ、将来の展望について考える。

この冊子には、フォーラム当日の基調講演1本、講演5本、パネルディスカッションを収録しました。今回のフォーラムが、日本語の文字・表記についてより深く考えるきっかけになれば幸いです。

国立国語研究所 高田智和



NINJALフォーラムシリーズ 2

国立国語研究所 第4回NINJALフォーラム

日本語文字・表記の難しさとおもしろさ

2012(平成24)年6月29日

発行:人間文化研究機構 国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町10-2

TEL 042-540-4300 FAX 042-540-4333

<http://www.ninjal.ac.jp>

撮影 田保橋 良

印刷 ヨシダ印刷株式会社



国立国語研究所

ISBN 978-4-906055-18-0